

## 事業の背景・目的

- ・鳥ノ巣半島は、神島を前面に臨む田辺湾に位置し、良好な里地・里山、大小ため池を有し、セトウチサンショウウオを代表とする希少な生物多様性が生育・生息している地域である。しかし、近年、外来生物であるアフリカツメガエルが繁殖し、在来生物を脅かし生物多様性損失の危機となっている。加えて、半島内では、放置された竹林や、半島外から侵入してきたイノシシ等による獣害も地域の生物多様性に影響を与えている。
- ・当該事業においては、地域や学校、自然環境団体が協働で、学び・体験をしながら、里地・里山環境の生物多様性を保全・回復する持続的な仕組みを構築することを目的とする。



鳥ノ巣半島と神島

## 事業の内容

鳥ノ巣半島において、地域、学校、自然環境団体、県民が協働し、学習会等を開催しながら、①アフリカツメガエルの防除活動、②竹林等環境整備、③獣害対策に取り組む。

### 【令和4年度】

#### 事業ア 水域外来生物防除事業（アフリカツメガエル防除）

- ・池干し・わなかけによる防除活動の実施

#### 事業イ 里地・里山環境整備事業（竹林等の管理）

- ・竹林の調査、学習会の開催、試行伐採、活用方法の検討

#### 事業ウ 地域住民が主体となった獣害対策事業

- ・現地調査、目標設定、講習会の実施

#### 事業エ 地域や子供たちが参加し協働する仕組みづくり

- ・地元、中高生、自然環境団体、県民への啓発



アフリカツメガエル



域内のため池（34箇所ある）



中高生による活動



竹林伐採学習会の様子

### 【令和5年度】

事業について、引き続き取り組む。令和4年度の結果を反映させる。

## 得られた成果

【事業の成果】①継続した防除作業によるアフリカツメガエルの個体数の減少、②竹林・獣害対策への地域住民や生徒の関心の高まり及び知識・技術の向上、③子供たちの体験・学習活動が生物多様性保全に寄与する好循環の創出

【活動継続の見通し】地元中等高等学校の生物部や地域が継続して自然環境保全を進めていく。

【事業終了後の展開】多様な主体が連携し、生物多様性について学び・体験できるフィールドとして活用することで、持続的な生物多様性保全へと繋げる